

赤外

9 関係文献  
新潟県教育委員会・財新潟県埋蔵文化財調査事業団『北陸新幹線  
関係発掘調査報告書V 大角地遺跡』(新潟県埋蔵文化財調査報告書一  
七三 一〇〇六年)

(田中一穂・加藤 学)

表面の冒頭部分だけ特に墨痕が薄く文字数も不明。他の墨痕は残  
存具合もよく、「ゐすみ」は肉眼でも墨痕を確認できる。最後の一  
文字は若干墨痕が薄いが、赤外線写真では明瞭。裏面は下端部付近  
に墨痕が確認される。一文字目が人偏と思われるが、二文字目以降  
は文字数も確定できない。ただし、裏の下端に向けて長く垂れ下が  
る字形は、「某兵衛」の可能性が高いと推測される。

「ゐすみた」を人名と考え、何らかの物品などに付けられて送ら  
れ、裏面にはその差出人が記載されたと推測する。ただし、管見の  
限りでは近隣の近世村落に関する人名で「ゐすみた」を名乗る人物  
は見出せていない。

- 1 所在地 新潟県糸魚川市大字田海  
2 調査期間 二〇〇七年(平19)五月～七月  
3 発掘機関 糸魚川市教育委員会  
4 調査担当者 山岸洋一  
5 遺跡の種類 集落跡  
6 遺跡及び木簡出土遺構の概要 繩文時代～近世  
7 大角地遺跡は、田海川右岸に形成された山麓の台地(洪積段丘か  
沖積段丘かは不明)の標高5m前後に立地する。過去の調査において、  
繩文時代前期・古墳時代中期・平安時代の堅穴住居が  
検出されており、当該期の  
集落跡として知られている。



(糸魚川)

今回の調査はガス供給施  
設複合遺跡である。

設建設に伴つもので、主な検出遺構は、古墳時代中・後期の土坑、古墳時代中期の竪穴状遺構などである。

木簡は、集落をはずれた西よりの谷状を呈する旧表土層から一点出土した。

## 8 木簡の釈文・内容

(1) 「□□**羌斗**

(137) × 25 × 5 081

墨痕はすべて残存していないが、文字の跡が浮き上がっている。

一文字目は「四」の可能性もある。

一文字の判読・写真撮影については田中一穂氏にお願いした。

## 9 関係文献

新潟県教育委員会・財新潟県埋蔵文化財調査事業団「北陸新幹線関係発掘調査報告書IV 大角地遺跡」(新潟県埋蔵文化財調査報告書一七三、二〇〇七年)



(山岸洋二)

## 新潟・**窪田**遺跡

くばた

所在地 新潟県村上市南田中字窪田

調査期間 二〇〇六年(平18)四月~二月

発掘機関 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団・国際航業(株)

調査担当者 前川雅夫

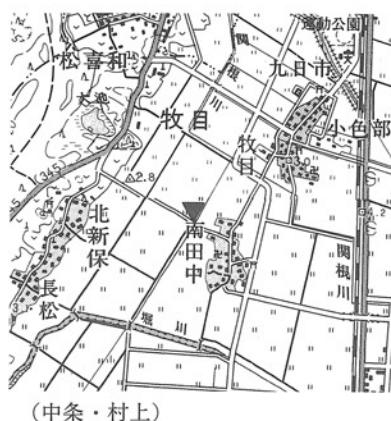
遺跡の種類 集落跡

遺跡の年代 八世紀・一二世紀~一四世紀・一七世紀~一八世

紀

## 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

窪田遺跡は越後平野の北部、荒川右岸の沖積微高地に立地する。



(中条・村上)

調査の結果、一七世紀~

一八世紀を中心とする河川

護岸施設や漁撈施設、一二

世紀後半~一四世紀前半の

集落、八世紀を中心とする

集落をそれぞれ検出した。

木簡は、中世から近世にかけて存在した河川SR一から五点、中世の井戸(S